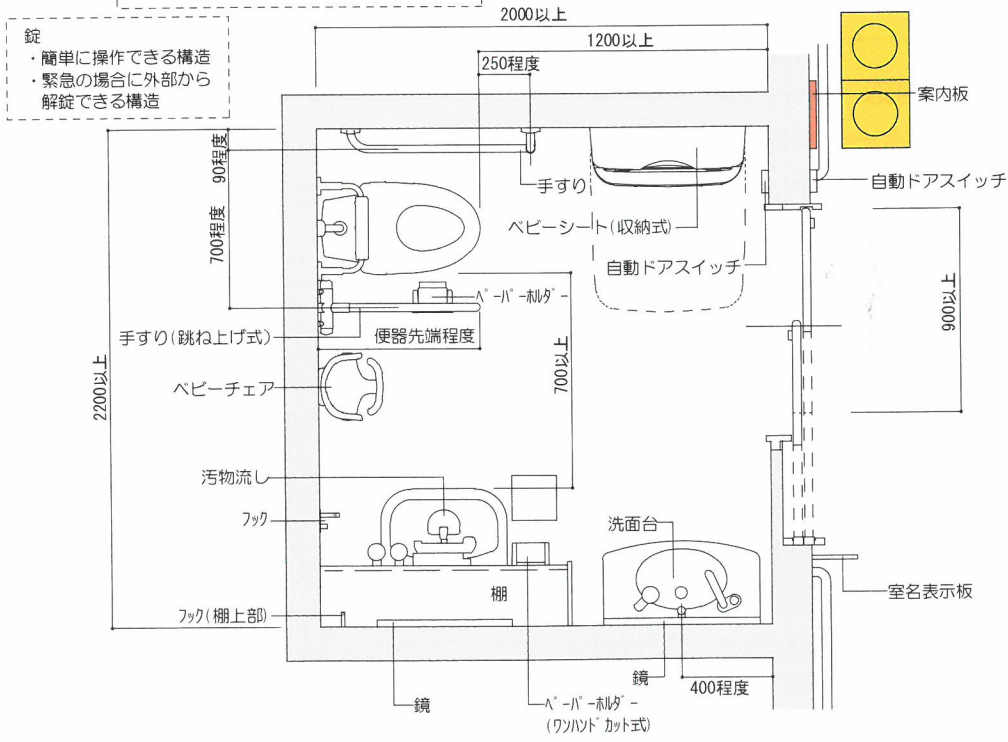
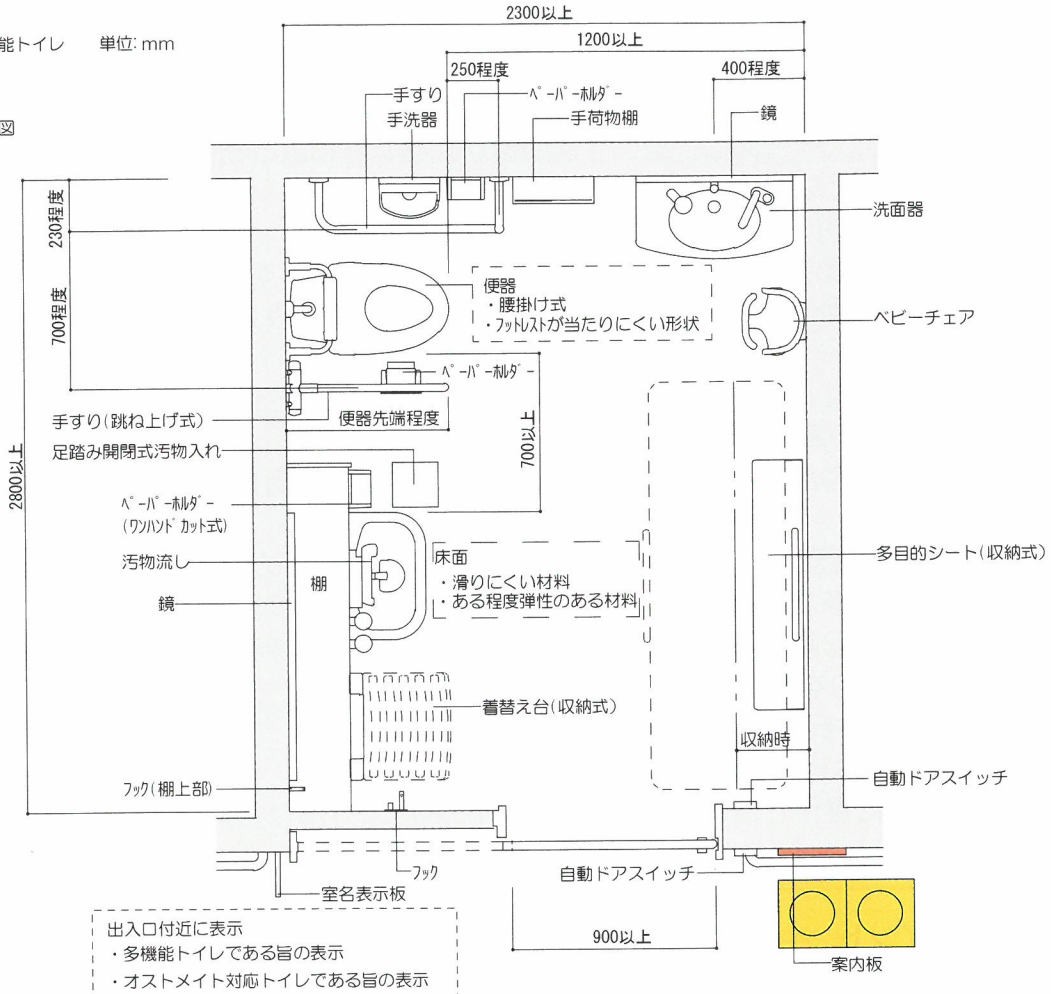


(11) 多機能トイレ

●多機能トイレ 単位: mm

●平面図



●多機能トイレ

◎設計のポイント1

- ・施設内に2箇所以上設ける場合は、それぞれ違うタイプのものを設け、利用者の能力に応じて選択できるようにする。
- ・施設内のわかりやすい場所に、多機能トイレ以外のトイレと一体となるように配置する。
- ・トイレ内のスペースは、車いす使用者が転回できる広さを確保する。
- ・出入口は引き戸とし、車いす使用者が円滑に通行できる幅を確保する。
- ・床面は滑りにくい材料で仕上げ、転倒したときの衝撃を緩和するため、ある程度弾性があるものにする。
- ・通行に支障となる段差や障害物を設けない。
- ・便器は腰掛け式とし、車いすのフットレストが当たりにくい形状とする。
- ・便器の両側と洗面台に、手すりを設ける。
- ・便器の両側に、ペーパーホルダーを設ける。
- ・洗浄操作ボタンは、便座に座ったまま操作できる位置に設ける。
- ・洗浄操作ボタンや緊急連絡ボタン等に、点字表示や浮き彫り文字を表示する。
- ・便器、洗面器の近い位置に、手荷物棚及び杖を立てかけるくぼみ等を設ける。
- ・トイレ内の配置、男用女用の別、構造等を触知図、点字表示、音声、浮き彫り文字等で案内する。
- ・便座に座った状態で、手が届く位置に手洗い器を設ける。
- ・緊急通報ボタンは、便座に座った状態で手が届く位置と、床に倒れたときに手が届く低い位置に設ける。
- ・手荷物棚、汚物入れ、フックは便器の近くに数ヶ所設ける。
- ・錠は簡単に操作できる構造とし、緊急の場合は外部から解錠できるようにする。
- ・出入口付近に、多機能トイレである旨を表示する。

◎管理のポイント

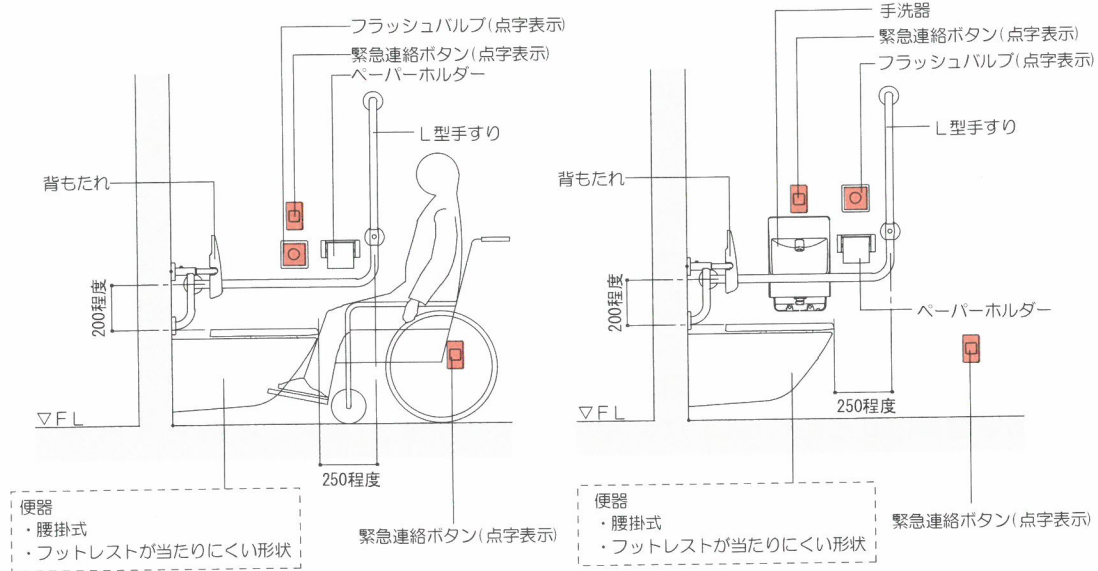
- ・利用する頻度が少ない施設では、設備の故障等を把握しにくいことがあるので、定期的に点検する。
- ・清掃時間を利用者にお知らせする、案内板を設ける。
- ・緊急通報は、管理人の有無等、その施設に適した設備を設ける。

◎ソフト面の対応

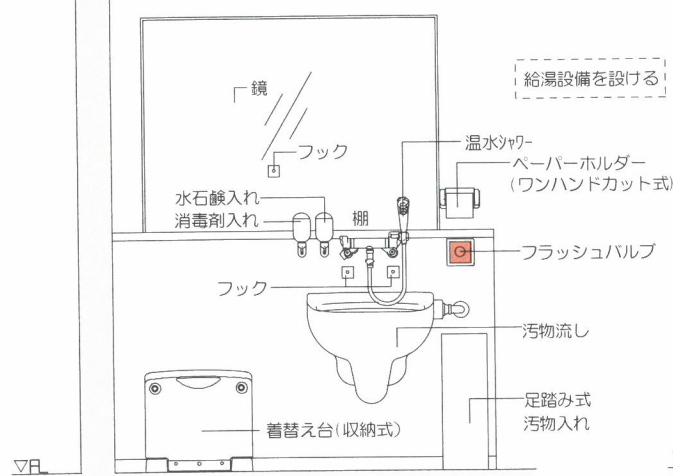
- ・非常呼び出し表示ランプが出入口付近にある場合は、点灯状況に注意する。

多機能トイレ

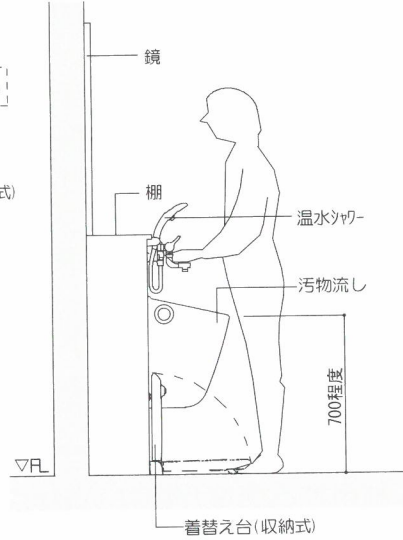
● 便器展開図 単位: mm



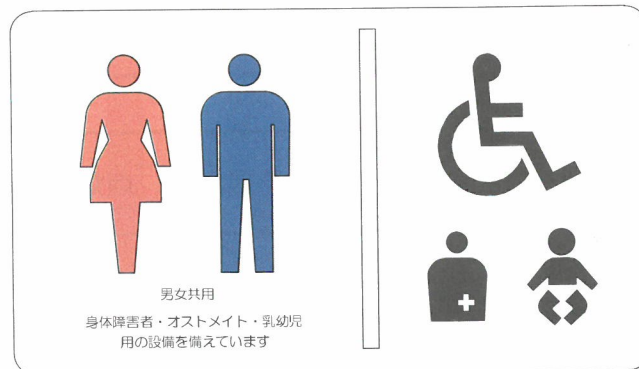
● 汚物流し正面図 単位: mm



● 汚物流し側面図 単位: mm



● 多機能トイレである旨・オストメイト対応トイレである旨の表示例 (男女共用の場合)



◎設計のポイント2<オストメイト対応>

- ・パウチ、汚れた物、腹部の洗浄に必要な汚物流しを設ける。
- ・給湯設備を設ける。
- ・汚物流しの近くに、ワンハンドカット式ペーパーホルダー、足踏み開閉式汚物入れ、水石けんと消毒液、補装具や付属品を置くための棚を設ける
- ・汚物流しの上部の壁に、鏡を設ける。
- ・汚物流しの上部や棚の上部に、フックを設ける
- ・着替え台を設ける。
- ・出入口付近にある多機能トイレである旨の表示の中に、オストメイト対応トイレである旨を表示する。

◎利用者の意見

- ・多機能トイレは、多くの機能を付加することによって、必要とするスペースが広くなり小規模な施設等には設置できないことがあります。このような場合でも、できる限り多様な人が利用できるように配慮してください。
- ・子供が誤って緊急連絡装置を作動させ、大きな音でベルが鳴り響き困ったことがあるので、解除方法の案内や通報するシステムを工夫してください。
- ・既存施設に汚物流しを簡単に設ける方法として、トイレ内のブース1つを改修する方法があります。
- ・汚物流しは利用者の背の高さによって、使いやすい高さが異なるので、高さが調整できるものが便利です。
- ・汚物流しの形状は、おなかの部分がくぼんだ体形に合わせた形のものが使いやすいです。

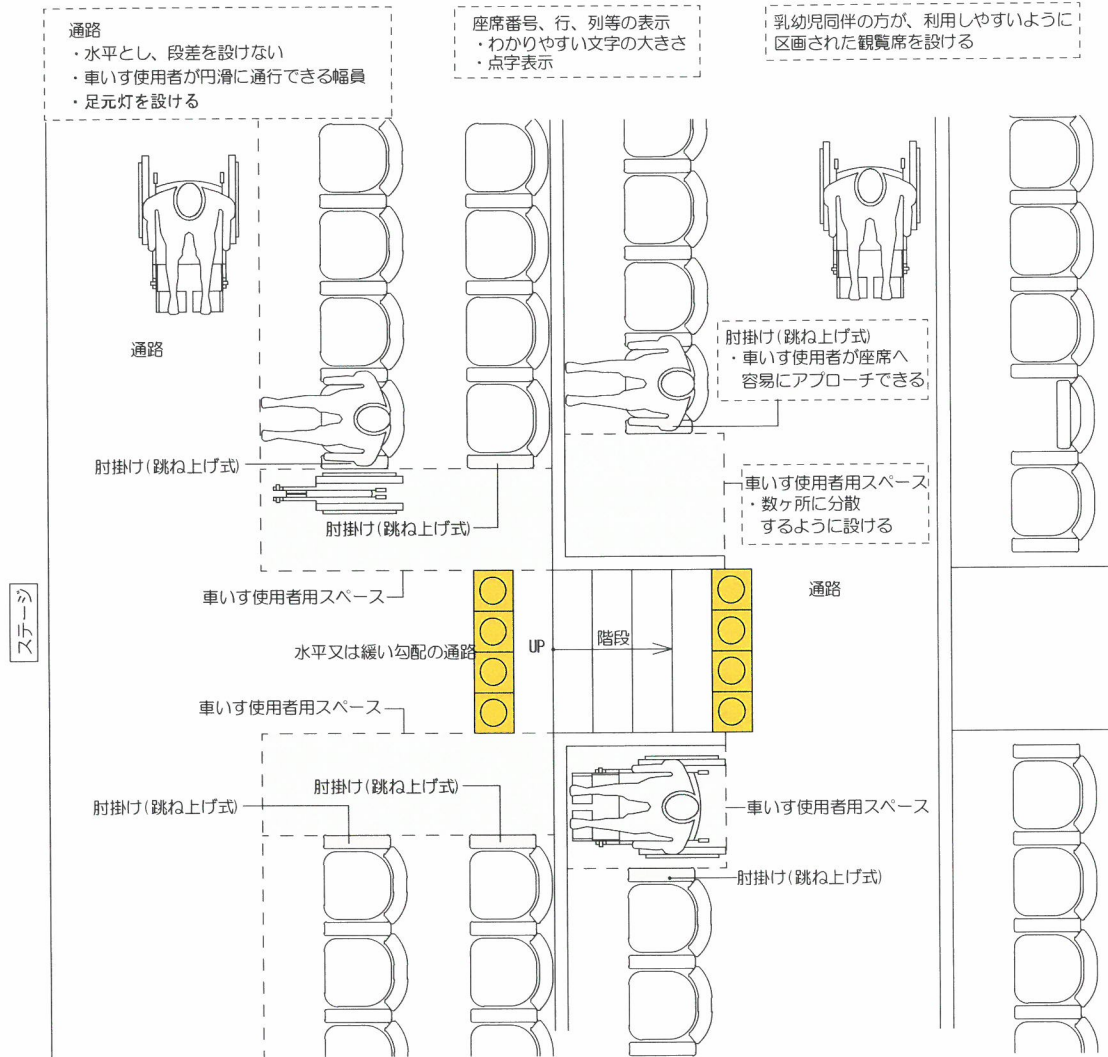
オストメイトとは

手術を受けて人工肛門、人工膀胱保持者となった人です。
腹部にパウチ（蓄便袋、蓄尿袋）を付けていて、外見から判断できない内部に障害を持つ人です。

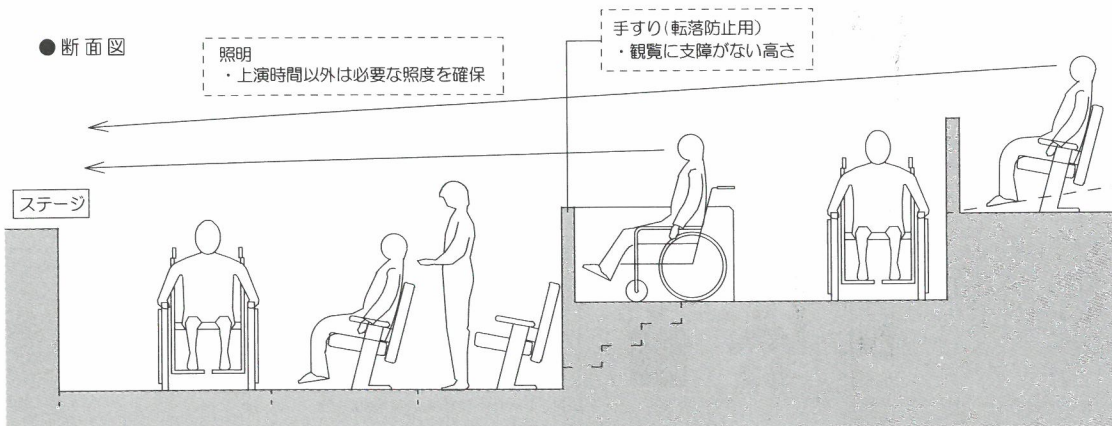
(12) 観覧席

● 観覧席 単位：mm

● 平面図



● 断面図



●観覧席

◎設計のポイント

- ①車いす使用者用スペース
 - ・水平とし、段差を設けない。
 - ・通路は、車いす使用者が円滑に通行できる幅員を確保する。
 - ・前列と高低差があり、転落する危険がある場合は、手すり等を設ける。この場合の手すりの高さは、観覧に支障がない高さにする。
 - ・数ヶ所に分散するように設け、観覧場所を選択できるようにする。
 - ・座席を脱着式等にとすると、多くの場所に設けることができる。
 - ・隣の座席は、車いす使用者が座席へ容易にアプローチできるように、肘掛けを跳ね上げ式等とする。
 - ・隣接した位置に、同伴者席を設ける。
- ②水平又は緩い勾配の通路の場合は、座席と通路の間に車いすを置くスペースを設け、通路側の座席へ車いす使用者が容易にアプローチできるように、肘掛けを跳ね上げ式等とする。
- ③わかりやすい文字の大きさと座席番号、行、列等を表示する。
- ④座席番号、行、列等の表示に、点字表示をする。
- ⑤乳幼児同伴の方等が利用しやすいように、区画された観覧席を設ける。
- ⑥座席、ステージ、楽屋までの経路に段差を設けないことを基本とするが、段差がある場合は昇降機、登壇設備等を設ける。
- ⑦照明は、上演時間以外は必要な照度を確保する。
- ⑧通路に、足元灯を設ける。

◎管理のポイント

- ・聴覚障害者用集団補聴装置（磁気誘導ループ）やFM補聴装置、字幕を表示する装置を設ける。

◎ソフト面の対応

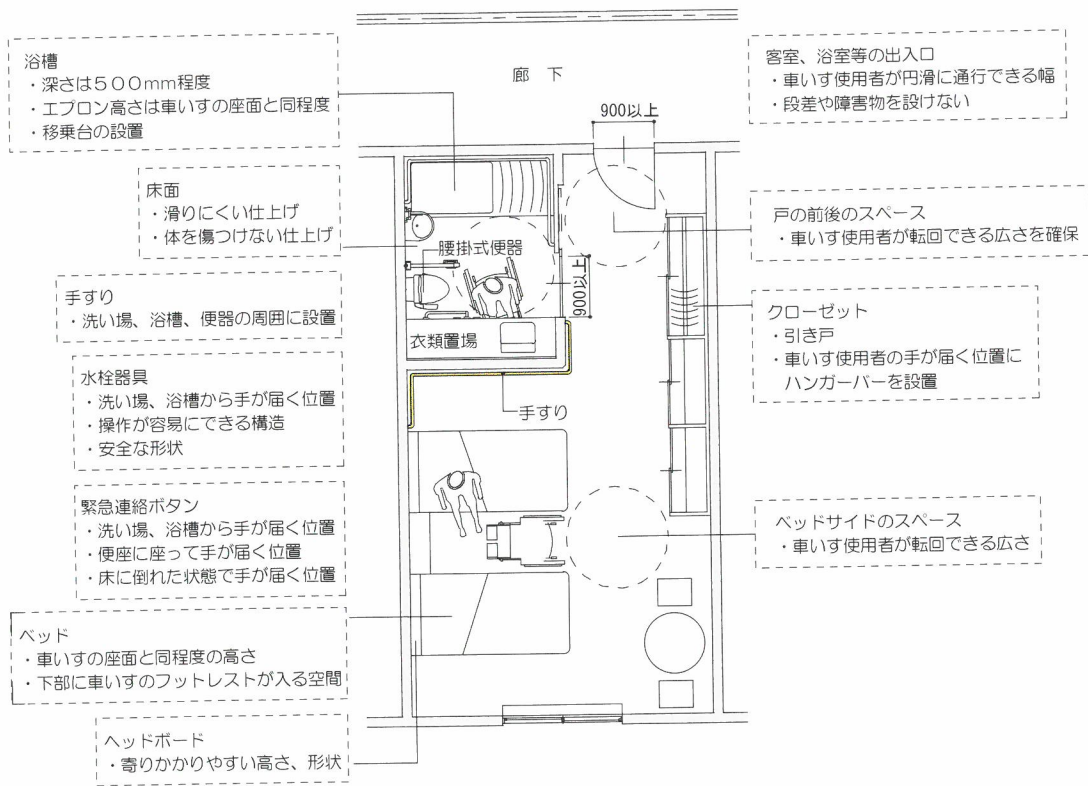
- ・自由席の場合に、視覚障害の方等を座席に案内するときは、出入口やトイレの近く、最後列の席等の特別扱いはしないで空席の状況を伝え、それによって本人が希望する座席へ案内する。

◎利用者の意見

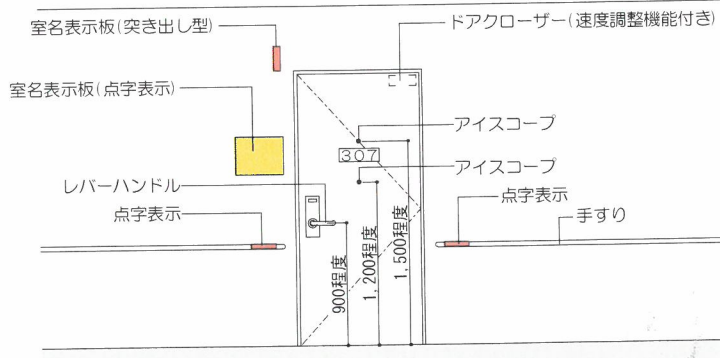
- ・座席をゆったりとすることで、誰もが快適に観覧できるますし、補助犬利用者にとっては、補助犬が快適に待機する空間が確保できます。
- ・車いすに座っている状態は、中腰で立っていることと同じで疲れます。車いす使用者の中には、座席で観覧したい人がいるので、車いすから座席アプローチできるようにしてください。

(13) 宿泊施設・客室

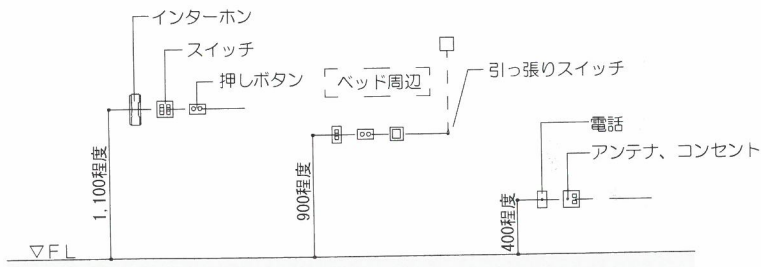
● 宿泊施設・客室 単位: mm



● 客室ドア



● スイッチ・コンセント等の高さ



● 宿泊施設・客室

◎設計のポイント

- ①客室、浴室等の出入口
 - ・車いす使用者が円滑に通行できる幅を確保する。
 - ・通行に支障となる段差や障害物等を設けない。
 - ・戸の前後のスペースは、車いす使用者が転回できる広さを確保する。
- ②浴室・トイレ
 - ・浴槽の深さは50cm程度とし、エプロン高さは車いすの座面と同程度の高さとする。
 - ・洗い場、浴槽、便器の周囲に水平、垂直の手すりを設ける。
 - ・水栓器具は、自動温度調節付きレバー式水栓等の操作が容易にできる構造とし、安全な形状とする。
 - ・水栓器具は、洗い場、浴槽から手が届く位置に設ける。
 - ・緊急連絡ボタンは、洗い場、浴槽から手が届く位置、便座に座って手が届く位置、床に倒れた状態で手が届く低い位置に設ける。
 - ・浴槽の縁に、移乗台を設ける。
 - ・床面は滑りにくく、体を傷つけない仕上げとする。
- ③ベッド
 - ・車いすの座面と同程度の高さとし、下部にフットレストが入る空間を確保する。
 - ・ヘッドボードは、寄りかかりやすい高さ、形状とする。
 - ・ベッドサイドのスペースは、車いす使用者が転回できる広さを確保する。
- ④クローゼットは、戸を引き戸とし、ハンガーバーを車いす使用者の手が届く高さに設ける。
- ⑤スイッチ、コンセントに、点字表示をする。
- ⑥部屋の配置、構造等を触知図、点字表示、音声、浮き彫り文字等で案内する。
- ⑦ベッドからトイレ、浴室、玄関までの通路には手すりを設ける。

◎管理のポイント

- ・筆談ボード、文字放送テレビ、ファクシミリ、老眼鏡、車いす等を備える。

◎ソフト面の対応

- ・予約があった際は、利用する方の障害の有無・程度、年齢、要望等をあらかじめ確認し、施設の状況を踏まえて適切に対応する。

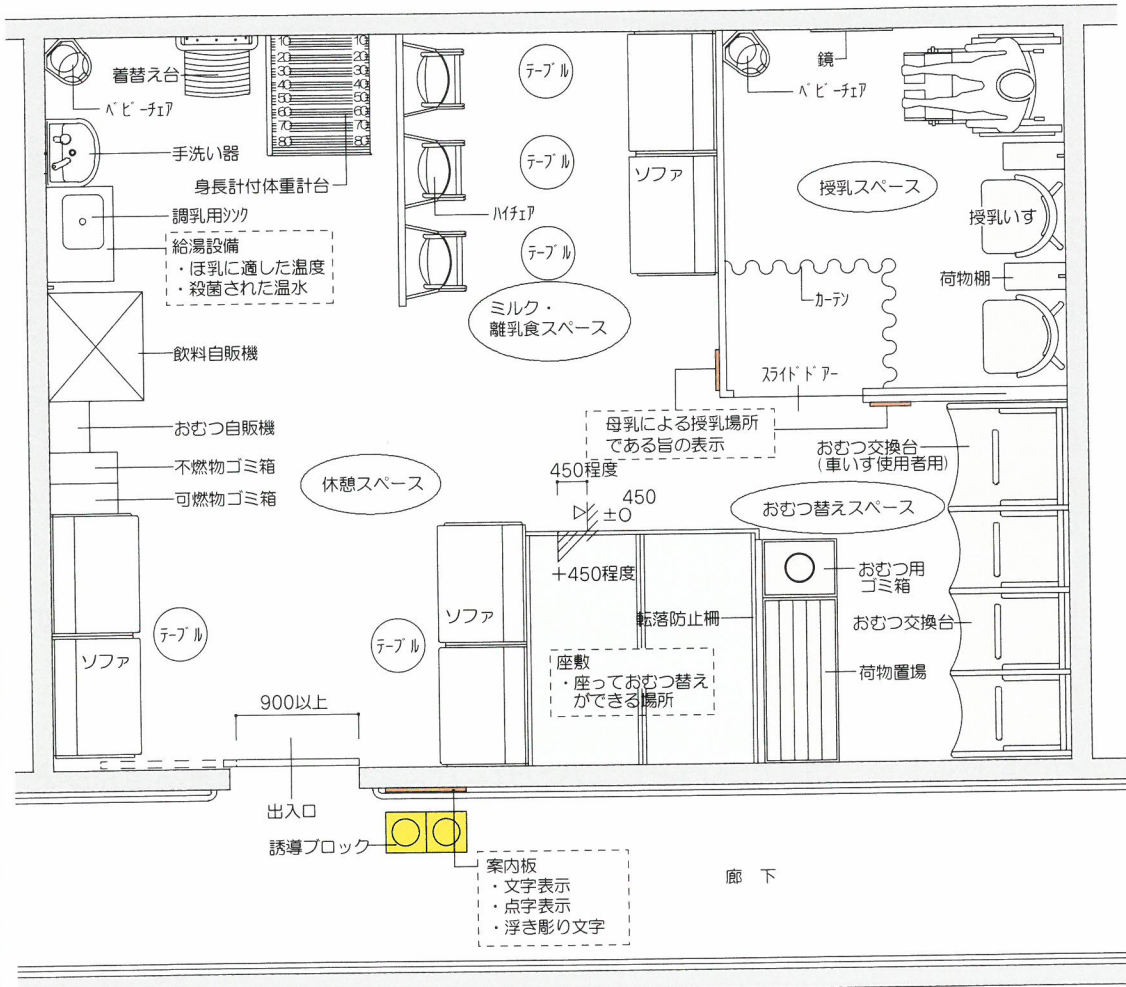
◎利用者の意見

- ・チャイム、電話、目覚まし時計、警報音等の情報を、音による伝達方法に加え、フラッシュライトや振動等で伝達できるようにしてください。

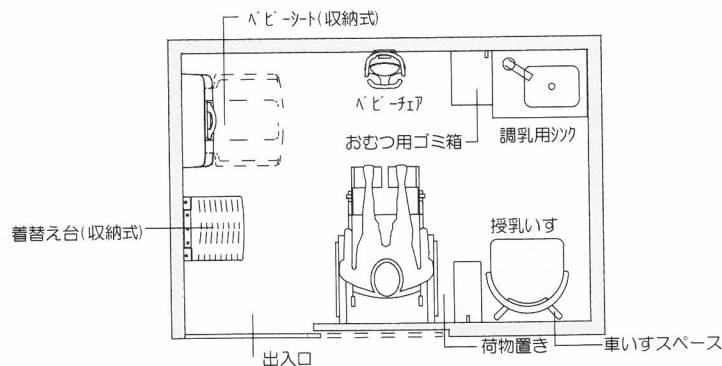
(14) 授乳、おむつ替えの場所

●授乳室（ベビールーム） 単位：mm

●大規模ベビールーム



●小規模ベビールーム



●授乳、おむつ替えの場所

◎設計のポイント

- ①トイレに隣接した場所に設ける。
- ②母乳による授乳場所
 - ・周囲と区画し、戸を開閉するときに外から見えないようにカーテンを設ける。
 - ・出入口付近に、母乳による授乳場所である旨を表示する
 - ・車いす使用者用のスペースを確保する。
- ③おむつ交換台
 - ・立って利用する高さのものと、車いす使用者が利用できる高さのものを設ける。
 - ・周辺にゴミ箱、荷物置場を設ける。
 - ・座敷等の座っておむつ替えができる場所を設ける。
- ④ほ乳に適した温度で殺菌された温水が、供給できる給湯設備を設ける。
- ⑤部屋の配置、構造等を触知図、点字表示、音声、浮き彫り文字等で案内する。
- ⑥同伴者が待機できるように、授乳室に近い場所に休憩場所を設ける。

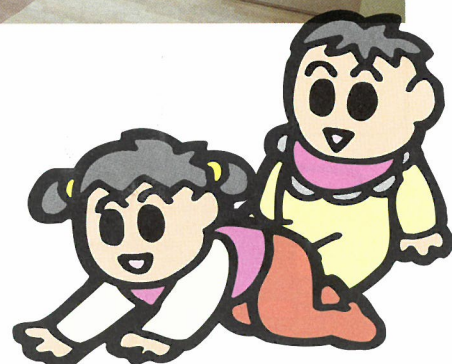
◎利用者の意見

- ・子供の成長に合った大きさの、おむつ交換台やベビーシートがあれば便利です。
- ・ショッピングセンター等に、子供が遊ぶ場所があれば便利です。

おむつ交換台



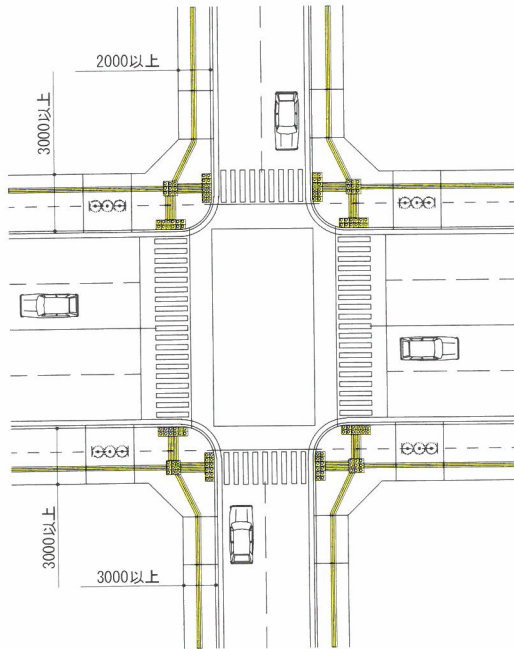
休憩スペース



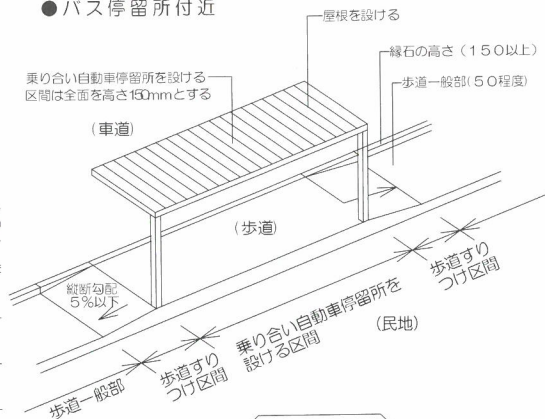
3 道路のユニバーサルデザイン

(1) 歩道

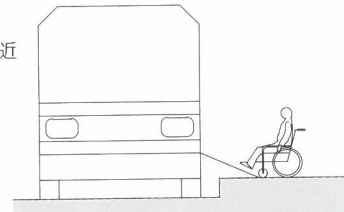
● 歩道 単位: mm



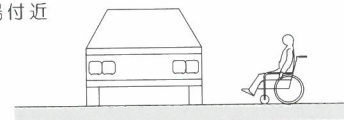
● バス停留所付近



● バス停留所付近

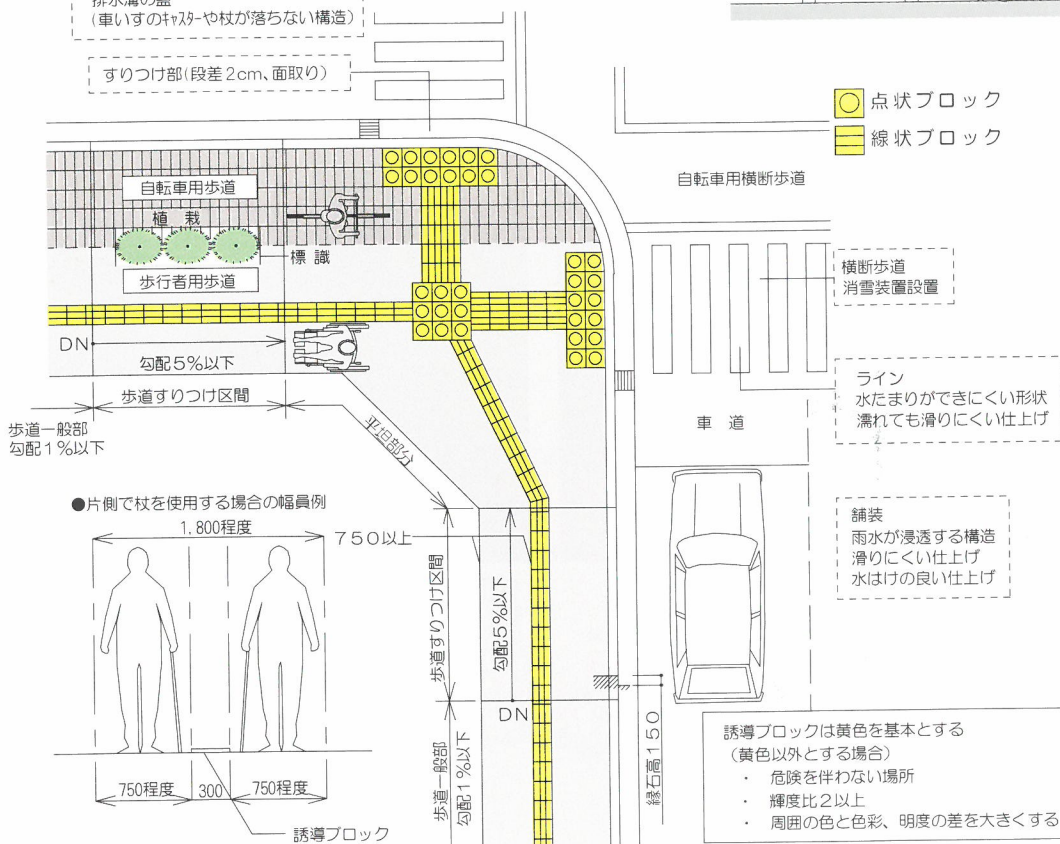


● タクシー乗場付近

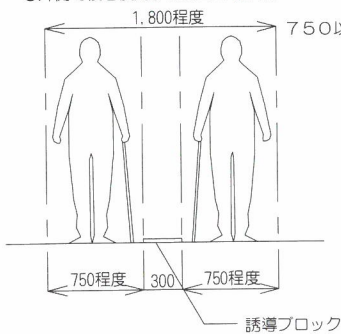


排水溝の蓋 (車いすのキャスターや杖が落ちない構造)

すりつけ部(段差2cm、面取り)



● 片側で杖を使用する場合の幅員例



●歩道

◎設計のポイント

- ①車いす使用者がすれ違いできる幅員とすると共に、通行量に応じた必要な幅員を確保する。
- ②横断歩道のすりつけ部は2cmの段を設け、面取りをする。
- ③消雪装置、防雪装置を設ける。特に勾配が5%を超える箇所及び堆雪幅が確保できない場所に設ける。
- ④自転車歩行者道は、自転車のマナー、ルールを周知徹底すると共に、自転車と歩行者の通行空間を分離する。
- ⑤舗装は、雨水が浸透する構造とし、滑りにくく、水はけの良い仕上げとする。
- ⑥排水溝等の蓋は、車いすのキャスターや杖が落ちない構造とする。
- ⑦縦断勾配はできる限り緩やかにし、縦断勾配と段差の間に1.5m程度の平坦部を設ける。
- ⑧横断勾配は1%以下とし、車道側に下る傾斜としない。
- ⑨誘導ブロック
 - ・色は黄色を基本とするが、黄色以外を使用する場合は危険を伴わない場所とし、輝度比2以上で周囲の色と色彩及び明度の差を大きくする。
 - ・敷設位置は歩道の中央付近に直線を基本に連続して設け、利用形態や周囲の状況から判断できない場合は、視覚障害の方の意見を聞き、それを反映した位置とする。
- ⑩横断歩道
 - ・消雪装置を設ける。
 - ・ラインは水たまりができてにくい形状とし、濡れても滑りにくい仕上げとする。

◎管理のポイント

- ・消雪装置等が設置できない場所は除雪する。
- ・路面の不陸及び沈下、縁石の破損、横断歩道すりつけ部の段の高さ等を定期的に点検する。
- ・植栽、植木等を定期的に剪定する。
- ・ラインや路面表示の濃淡、路面排水の状況等を定期的に点検する。
- ・誘導ブロックの汚れ、輝度の低下、磨耗、破損等を定期的に点検する。

◎ソフト面の対応

- ・歩道上に自転車、展示物、看板等は置けません。
- ・自転車の通行マナー、ルールを周知徹底する。

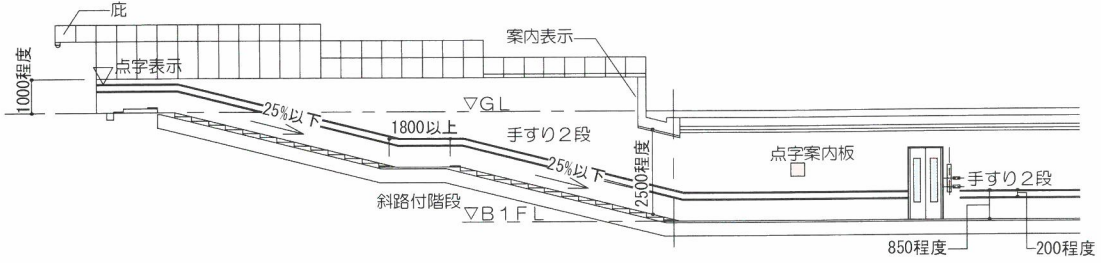
◎利用者の意見

- ・横断歩道に、消雪装置を設置してください。
- ・横断歩道に、誘導ブロックを敷設してください。
視覚障害の方が、まっすぐに横断することができます。

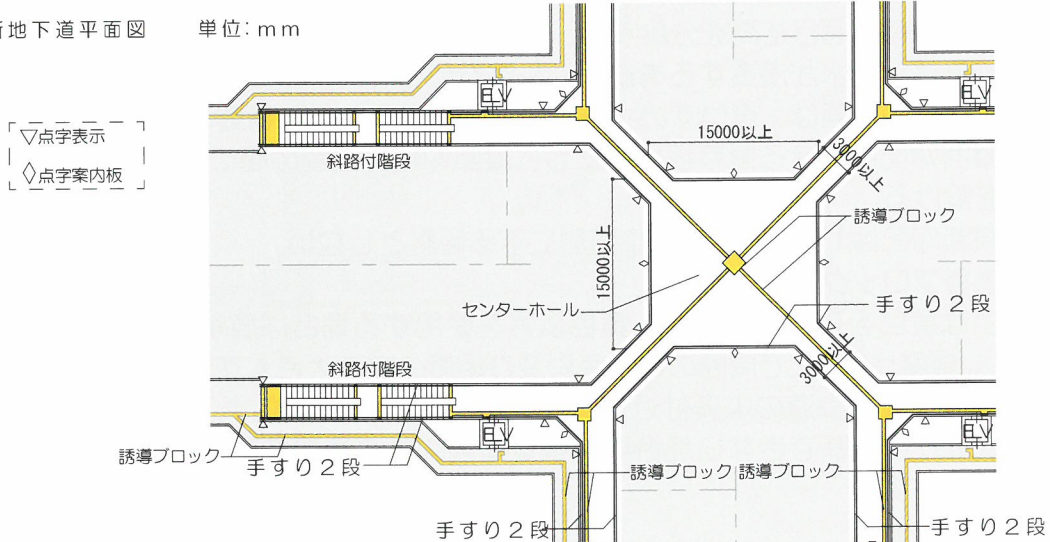


(2) 立体横断施設 (地下道)

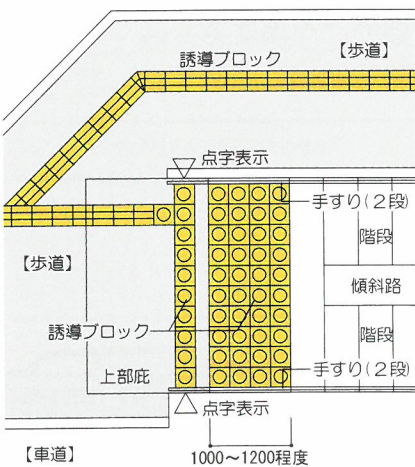
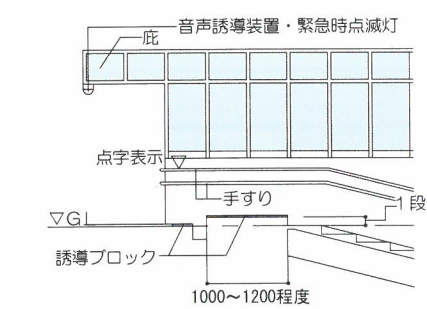
● 横断地下道断面図 単位: mm



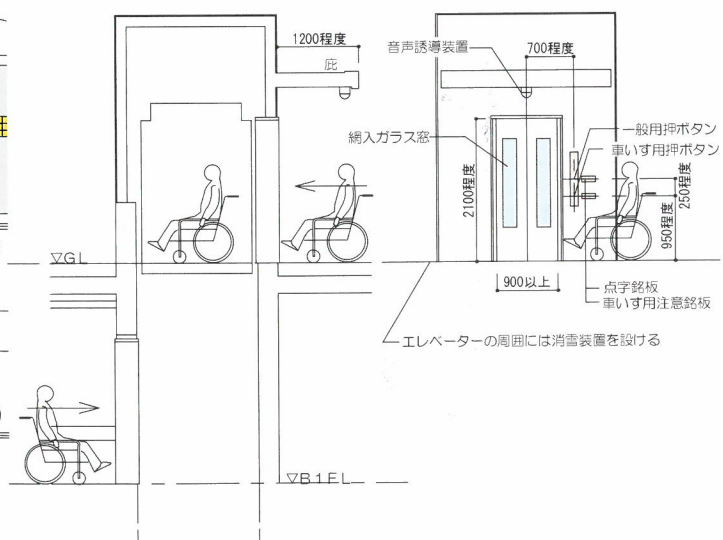
● 横断地下道平面図 単位: mm



● 地下道出入口詳細図 単位: mm



● エレベーター詳細図 単位: mm



●立体横断施設（地下道）

・地下道は歩行者等の通行の安全は確保できますが、地上から地下へ、また地上へ移動することになり、使いにくい場合があります。

◎設計のポイント

- ①エレベーターを設置する。
- ②通路
 - ・通行量に応じた、必要な幅員を確保する。
 - ・照明は、必要な照度を確保する。
 - ・壁と床の色は、色彩及び明度の差を大きくし、境がわかるようにする。
 - ・傾斜の緩いスロープは、ベビーカーが利用することを想定し、必要な幅を確保する。
- ③出入口
 - ・庇を設ける。
 - ・雨水の浸入や自転車での走行を防ぐため、周囲の地盤面より1段高くする。
 - ・各出入口は色分けし、区別しやすいようにする。
- ④案内標識や案内板に、現在位置、出入口の場所、目印となる主な施設、方位等をわかりやすく表示する。
- ⑤手すりの端部、曲がり部分に現在位置、誘導案内等の必要な情報を点字表示する。
- ⑥誘導ブロックを敷設する。
- ⑦各出入口及び各通路に、音声案内を設ける。

◎管理のポイント

- ・防犯カメラを設置する。

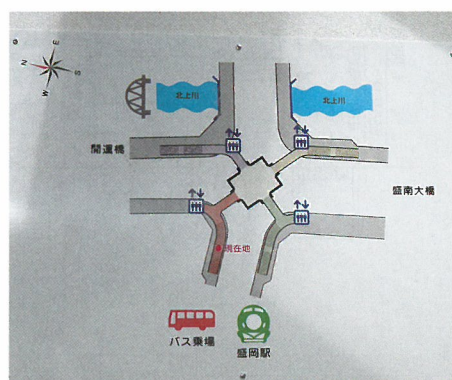
◎ソフト面の対応

- ・必ず自転車から降りて通行する。

◎利用者の意見

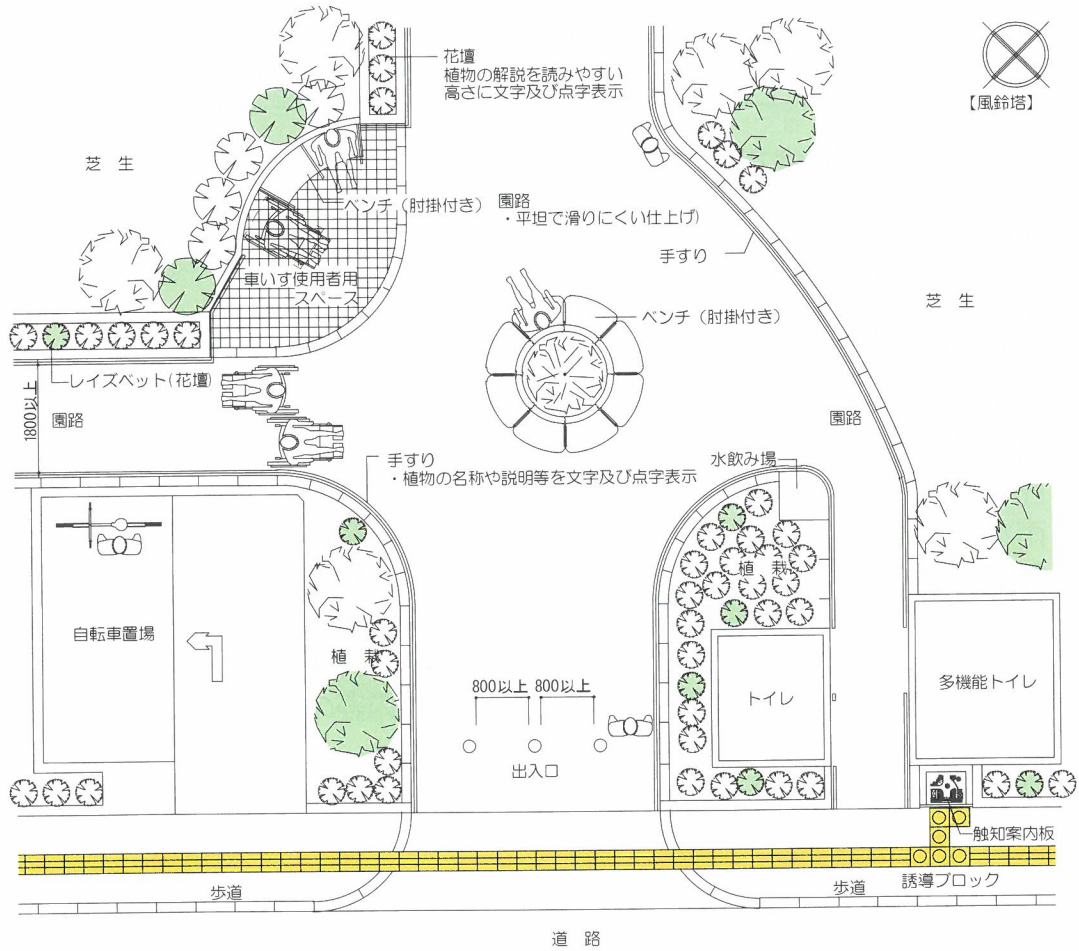
- ・地下道の形状によっては、方向感覚を失うことがあります。広い中央広場にとすると、地下へ入ってすぐに出口が確認できるので、わかりやすくなる場合があります。
- ・照明を明るくすると共に、誘導ブロックは明るい色にしてください。

案内標識の例

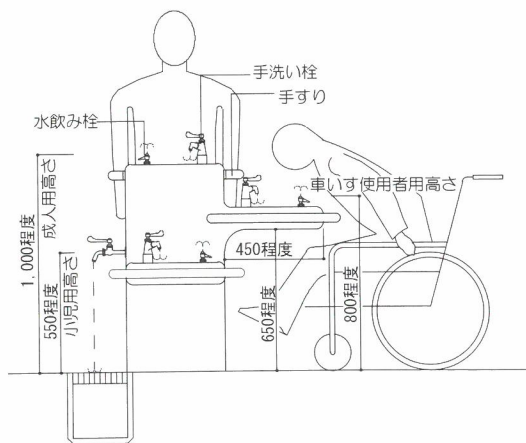


4 市街地のユニバーサルデザイン

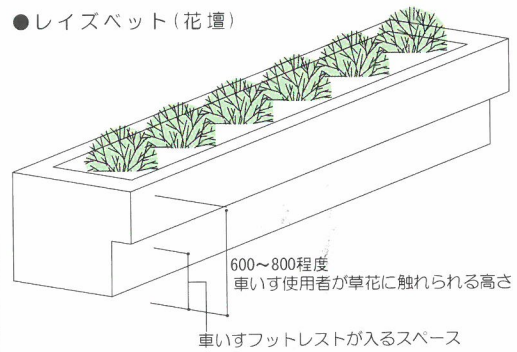
(1) 公園



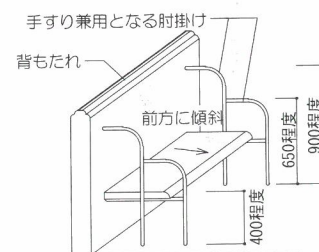
● 水飲み場



● レイズベット (花壇)



● ベンチ各部基本寸法



●公園

◎設計のポイント

①園路

- ・車いす使用者がすれ違いできる幅を確保する。
- ・路面は滑りにくい仕上げとし、砂利敷き等は避ける。
- ・水平とし、段を設けない。
- ・誘導用の手すりを連続して設ける。ただし、危険を伴わない場所で利用形態や周囲の状況から設置できない場合は、園路とそれ以外の部分とを材質の違い等で区別できるようにする。
- ・手すりの端部、曲がり部分に現在位置、誘導案内等の必要な情報を点字表示する。

②水飲み場

- ・飲み口の高さは、車いす使用者、子供、大人が使いやすいものをそれぞれ設ける。
- ・コップやペットボトルに、水を汲みやすい形状の蛇口を設ける。
- ・子供が服を汚さないように、水飲み器の縁沿いに手すりを設ける。

③隣接した場所に、自転車を置くスペースを確保する。

④休憩場所

- ・ベンチ、車いす使用者の休憩スペースを設ける。
- ・屋根を設ける。
- ・ベンチに背もたれや肘掛けを設け、高齢者等が使いやすい形状とする。

⑤案内板に、インターホン等の音声案内、点字表示、触知図等を設ける。

◎管理のポイント

- ・路面の不陸及び沈下、縁石の破損等を定期的に点検する
- ・植栽、植木等を定期的に剪定する。
- ・遊具等は安全なものを設置し、定期的に点検する。

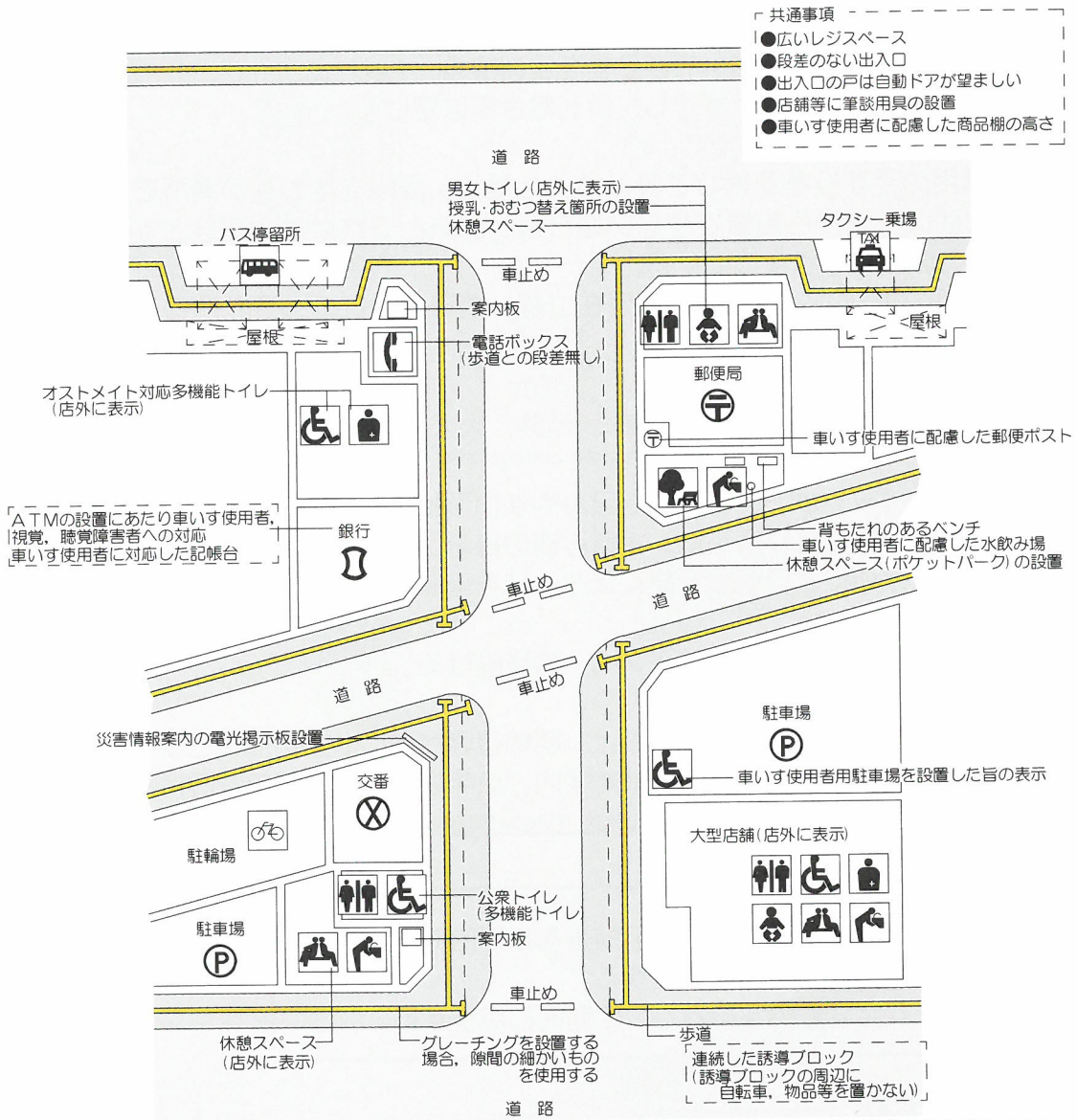
◎ソフト面の対応

- ・ゴミや犬の糞を持ち帰る。

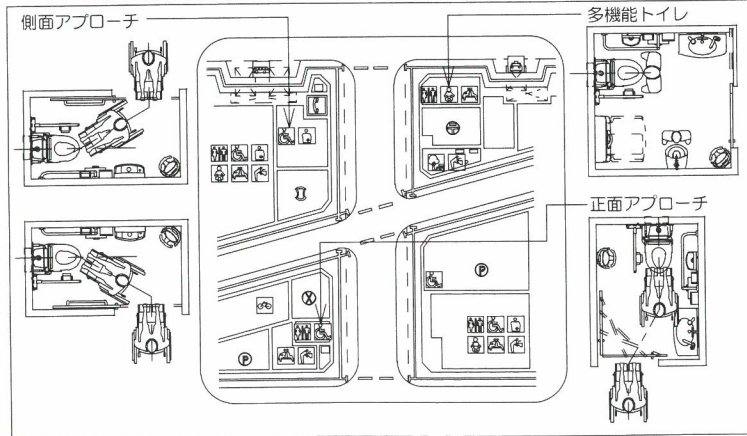
◎利用者の意見

- ・公園内に、公衆トイレを設置してください。

(2) 商店街



トイレの案内板の表示例



凡例



●商店街

◎設計のポイント

- ・アーケードとする。
- ・車いす使用者や子供が、使いやすい高さの公衆電話を設ける。
- ・避難場所まで案内標識を設ける。
- ・通路及び出入口には、段差を設けない。
- ・災害情報等の必要な情報を、電光表示板で発信する。
- ・音声案内付き現金自動支払機を設ける。
- ・車いす使用者が使いやすい高さの、現金自動支払機を設ける。
- ・休憩、授乳・おむつ替えをする場所を設ける。
- ・タクシー乗り場、バス停に屋根を設ける。
- ・自転車を置くスペースを確保する。
- ・ポストは、車いす使用者や子供の手が投函口に届くものを設ける。
- ・レジの金額表示は客側に向けて表示する。
- ・違うタイプの多機能トイレを数ヶ所設け、利用者のニーズに応じて選択できるようにし、タイプと設置場所とを案内板で表示する。
- ・店内に多機能トイレを設けた場合、その旨を店外のわかりやすい場所に表示する。

◎管理のポイント

- ・通行に支障となる、看板等の物品を置かない。
- ・出入口の段差を解消できない場合は、入口から店内へ連絡できるようにインターホン等を設ける。

◎ソフト面の対応

- ・歩道に自転車は置けません。

◎利用者の意見

- ・聴覚障害の方が、現金自動支払機のトラブルを連絡できるようにしてください。
- ・通行の妨げにならないで、車に乗車したまま投函できるポストは便利です。